

みらいビジョン大府 放課後等デイサービス自己評価結果

記入年月日： 令和 3年 3月 15日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		定員に対し1人1台机があり、その他に個別の運動スペースや、おやつを食べる場所などが確保できている。
	2	職員の配置数は適切である	○		基準(利用児10名に対し有資格者2名)を超えて配置している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		玄関、トイレ等に段差がある。必要に応じて対応を検討する。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		全職員より、月1度行う会議や、日々のミーティングにて意見を求め改善を行う流れを設けている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		2021年度は3月にアンケートを実施した。結果と業務改善案については別紙にて公表している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		事業所ホームページにて公表している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○	○	今年度は外部評価は行っていない。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		毎月職員研修を行い、福祉制度や児童の安全管理、支援手法などについての知識を共有している。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		計画作成ごとに、利用中の児童の様子を記録したものや、保護者から伺ったご家庭や学校での様子等を踏まえニーズや課題を確認している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○	○	現在は事業所で作成したアセスメントツールを使用しているが、今後導入していきたいと考えている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		プログラム作成の際には全職員の意見を聞く機会を設けている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		活動の流れに枠組みはあるが、その中で行うプログラムは随時変化させている。個別に提供する課題については本人の興味・関心等に配慮して提供している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		平日、休日に変化はない。利用当日の体調等に合わせ、提供する課題の量や順番は変えている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個別活動を中心とし、メインの活動の終了後に児童同士の小集団でコミュニケーションを図る機会を提供する計画としている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		支援開始前に、利用児童の前回利用時の様子や当日の支援方針についての打ち合わせと、当日の役割分担の確認を行っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○	○	支援終了後は、利用児童を担当した職員が当日の様子や保護者からのご意見等を記録し、翌日の支援開始前のミーティングにて共有する流れとしている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		利用毎に提供した課題や支援内容について記録を取り、次回の課題設定や支援内容に反映させている。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		日々の振り返りと、月毎の支援会議等にて見直しが必要か判断している。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		「自立支援と日常生活の充実のための活動」「余暇の提供」を中心に、支援内容を日々工夫している。	
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者、あるいは利用児童の様子が詳しく分かる担当指導員が参画する。	

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○	学校への送迎を行っていないため、下校時刻に関連する情報共有は行っていない。利用児童が通っている学校の所在地や連絡先については、緊急連絡用として把握している。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○	現在、医療的ケアが必要な方の利用はないが、今後利用があれば連絡体制を整える。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○	保護者からの許可・及び希望があれば情報共有に努めたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○	まだ実例がないが、利用児童の移行時には情報提供を行い、より安心して移行ができるよう協力したい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	提供される研修に複数名で参加できるようにシフトを調節している。また、参加できなかった職員にも伝達する機会を設けている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○	提供しているプログラムは利用児童以外との交流を想定していないが、保護者からの意見等も伺い、必要があれば今後検討する。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○	地域において福祉資源を提供する事業所として、積極的に参加していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	送迎を行っていないため、送り迎えで来て頂いたご家族へ、当日担当した職員から直接デイでの様子をご報告することができている。その際にご家庭や学校での様子を伺っている。
保護者への説明責任等	29	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	契約の際に説明を行っている。不明な点等は随時お答えできるよう体制を整えている。
	30	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	来所、降所の際に気軽に話していただける事業所を目指している。頂いた相談について、支援方法の紹介や、外部の資源の情報提供などを行い、その後の経過についても支援を行っていききたい。
	31	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	保護者との連携については密に行いたいと考えているが、保護者同士が連携する機会の提供は現在のところ行っていない。
	32	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○	契約の際に管理者・及び自治体の苦情窓口を紹介している。また、駐車場の不足などのご意見については、可能な範囲で対応し、対応策を周知するよう努めている。
	33	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	会報という形での発信は行っていない。台風や感染症に関する連絡等については、事業所より個別に発信をしている。
	34	個人情報に十分注意している	○	事業所内で研修を行い、対象となる範囲や具体的な保護の方法について情報を共有している。
	35	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	利用児童の理解しやすい方法(筆談、絵など)を用いている。保護者との情報伝達についても、直接話す、メールでやり取りするなどの方法を必要に応じて提案している。
	36	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	取り組みとして行っていないが、ご見学等は随時お受けしている。
	37	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	職員への周知はしているが、保護者への周知が不足していた。今後、事業所としての取り組みをお知らせする機会を設けていく。

非常時等の対応	38	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	年に2回、職員向けの消防、災害訓練と、利用児童と一緒に行う避難訓練を行っている。また、年に1回AED講習を行っている。
	39	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	外部研修への参加と、事業所内での研修の機会を設けている。
	40	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	現在放課後等デイサービス計画に身体拘束実施の記載をしている利用児童はいないが、必要がある場合には面談等を実施し、手順に則って実施する。
	41	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	保護者を介して情報を共有し対応している。具体的にはアレルギーを含まないおやつの提供や、緊急時の対応についての協議を行っている。
	42	ヒヤリハットを作成して事業所内で共有している	○	適宜記録を取り職員全体で情報を共有している。また、施設内での事故予防についての研修も行っている。